

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	19 - 学長 - 5
-----------------	-------------

平成19年度配分 研究成果の概要

研究名	マシモ-タリ知能の関与XTIP心理学的研究 (3)				
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費 1,946 <del>2,936</del> 千円				
研究者氏名 (代表者)	学 部 名 (研究科名)	学 科 名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	マシモ	XTIP心理	助教授	長嶋 洋一	研究費計画 実行全般
共同 研究 者	"	生体工学	"	迫 秀樹	生理計測
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 7 号 (2007年 3 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名: 情報処理学会 音声情報学会 「4」コンドの室内の音声(2007年12月)		発表日 (発表 予定日)	平成19年12月15日	
	3 その他 発表の方法: 邦文(4件)		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注: 配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)





本研究は、マルチメディア時代のエンタテインメントに関連して、インターネット/映像コンテンツ・ゲーム/アミューズメントの主要な感覚チャンネルである視覚/聴覚の領域を対象とし、新たに社会的に注目され、日本が世界をリードするコンテンツ産業にも関連した「映像酔い」に関するものである。多種のディスプレイが普及するとともに、視聴者の気分が悪くなる「映像酔い」が注目され、医学/生理学的な調査や、制作に対する国際的な規制標準化に向けた動き注目されつつある。本研究ではこれをメディア造形(コンテンツデザイン)という応用領域に展開するための研究を進め、人間の感性・感覚とIT科学との橋渡しをする新たな可能性の提起を目的とした。複数年にわたった研究のとりまとめの年となった。

(研究の実施方法等)

前年度研究において、(A)新しいアプローチでの「映像酔い」の計測と定量化、(B)映像と同期させた有効なサウンド生成により「映像酔い」を抑止する可能性の検討、(C)映像と関連づけたサウンド生成によりエンタテインメント性を拡張した新しい視覚効果の可能性、を提唱した研究を行った。本研究ではこれを受けて、前年度研究の生体計測情報である末端二酸化炭素濃度から計測対象を拡張した新しい心理学実験をデザインして、より詳細な心理学実験を行った。学会発表での議論から、心理学実験に提示する音響素材についての検討をあらためて行い、その検証の心理学実験をデザインし実施した。これを受けて、サウンドによる空間的な予告が「映像酔い」を抑止する、という仮説のもとに最終的な心理学実験をデザインし実施した。また、音響素材の検討から派生して、「メディアコンテンツ・デザイン教育におけるコンピュータサウンドの活用」「マルチメディア心理学実験のためのプラットフォーム」というテーマでの学会発表も行った。後者については、平成20年度デザイン研究科長特別研究のテーマに発展して継続している。

(得られた成果等)

関連の学会発表は以下であり、この研究はを発展させた研究計画を科研費に申請したが、結果として採択されなかった。このため、研究は完了していないが、研究費の目処がないために、ひとまずここを区切りとすることとした。

- (1)論文「映像酔いとサウンドによる抑止の検討」   
『静岡文化芸術大学紀要・第7号2006年』(静岡文化芸術大学)
- (2)論文「マルチメディア心理学実験において提示するサウンド素材の検討」  
『日本音楽知覚認知学会2007年春季研究発表会資料』(日本音楽知覚認知学会)
- (3)論文「2次元空間のサウンド知覚と音響素材の検討」   
『情報処理学会研究報告 Vol.2007, No.81 (2007-MUS-71)』(情報処理学会)
- (4)論文「メディアコンテンツ・デザイン教育におけるコンピュータサウンドの活用事例」   
『情報処理学会研究報告 Vol.2007, No.102 (2007-MUS-72)』(情報処理学会)
- (5)論文「サウンドの空間的予告による映像酔いの抑止について」   
『情報処理学会研究報告 Vol.2007, No.127 (2007-MUS-73)』(情報処理学会)
- (6)論文「マルチメディア心理学実験のためのプラットフォームについて」  
『日本音楽知覚認知学会2008年春季研究発表会資料』(日本音楽知覚認知学会)